糸島空き家プロジェクト―学生主体で取り組む空き家再生による地域づくり

田栗 万里子・大池 岳　九州大学 糸島空き家プロジェクト

1. 糸島空き家プロジェクト

九州大学の移転が完了した福岡県糸島半島では，学研都市化が推進される一方で，空き家も地域課題となっています。

このような背景のもと，本プロジェクトは 2011 年に発足し，今年で 15 周年を迎えます。こうした継続的な活動を支えているのが，学生・行政・専門家による連携体制です。設計・施工・運用の全過程において学生が主体となって活動し，キャンパス計画室，糸島市，福岡市や地域住民，地元企業（建設会社やシルバー人材センターなど）がそれを実務的にバックアップしています。さらに，各分野で活躍する九州大学建築学科や本プロジェクトの卒業生らで構成される「九大 OB 相談のる研」が，設計や運営に関する助言を行い在学生の活動を支えています（図 1）。このような体制のもと，15 年間にわたり多数の空き家改修に取り組んできました。その用途も学生寮にとどまらず，学生と企業が交流するコミュニティスペース，民泊が可能なアウトドア施設，地域に展開可能な移動式屋台カーなど多岐にわたっています。改修だけでなく，施主との協議や物件ごとの事業者との関係づくりまで，学生自身が試行錯誤しながら進めています。近年では，改修の中で糸島の素材を取り入れる試みも行っています。以下のような「糸島らしさ」を取り入れた施工方法を積極的に採用することで，地域資源の活用や魅力発信を行っています。

・糸島の牡蠣殻を用いた土間仕上げ
・糸島産杉材を用いた焼杉による外壁貼り
・未利用材（背板）をコンクリート型枠に採用したキッチンカウンター

こうした卒業後も続く関係性や継続的な活動が評価され，この度，「九州まちづくり賞」を糸島空き家プロジェクト・糸島市・九大 OB 相談のる研が受賞しました。

2. 学生主体のまちづくり

本プロジェクトでは，発足以来一貫して以下の 5 つの目標を掲げて活動を展開しています。

①地域と大学・学生の交流の促進
②地域に存在する空き家の活用
③学生の新たなライフスタイルの提案
④学生の実践的教育の場の創出
⑤糸島地域を愛する人を増やす

私たちは，学生だからこそできる地域との関わり方があると考えています。行政や民間企業とは異なり，商業的な利害関係を持たずに地域の中へと深く入り込み，地域住民との関係を少しずつ築きながら活動を続けてきました。

現在も，新たなプロジェクトが各地で進んでいます。今年度は，地元の方に親しまれていたものの空き家となっている旧レストランを地域のコミュニティーセンターに改修するプロジェクト，野外活動センターの敷地内で福岡市産材などを活用した自然を楽しめる居場所をつくるプロジェクトが動き出しました。いずれも地域住民に親しまれる場所となるよう，施工段階から地域との関わりを意識して活動しています。

さらに，姫島祇園祭をはじめとする地域のお祭りへの積極的な参加・出店を通じた信頼関係の構築に努めており，単なる空き家改修にとどまらず，糸島の地域に深く根ざした活動を続けています。

私たちが手掛けてきたひとつひとつの物件は小さな拠点ですが，15 年間活動を続けてきたことで，空き家改修を通した拠点づくりが糸島全体へとつながる活動になってきました（図 2）。先輩方から受け継がれてきた糸島空き家プロジェクトの活動でこれからも地域との絆をさらに深め，糸島の持続可能な地域づくりに貢献してまいります。



図 1　糸島空き家プロジェクトメンバー



図 2　糸島全体に広がる拠点づくり